

道徳通信かがわ

第37号

令和2年1月16日(木)

香川県教育委員会事務局

義務教育課

令和となって初めて新たな年を迎え、各学校における年度のまとめの時期ともなりました。本年度より、中学校でも道徳科の評価が行われることとなっています。改めて、評価に関する事項について、確認したいと思います。

(1) 道徳科の評価の基本的態度

- ・学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握する。 ・数値の評価は行わない。
- (※道徳性が養われたかどうかは、容易に判断できるものではない。)

(2) 道徳科の評価の在り方

- ・記述式の評価 ・大きくくりなまとまりを踏まえた評価 ・認め励ます個人内評価

(3) 授業における児童生徒の評価の視点【児童生徒の学習状況を見取る】

- ①より多面的・多角的な見方へと発展しているか。
 - ②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- (※教師はねらいを設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして評価は行わない。)

(4) 児童生徒の学びの姿の例

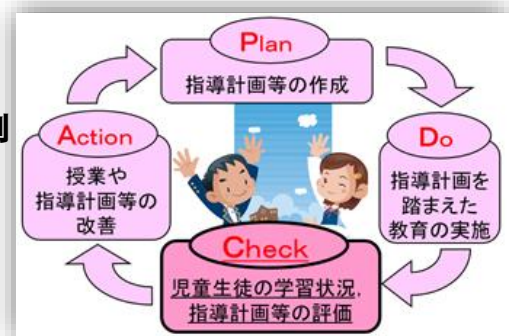
- ①道徳的価値のよさや大切さについて考える姿
- ②道徳的価値について1つの見方ではなく様々な角度から捉えて考える姿
- ③道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考える姿
- ④授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとする姿

(5) 児童生徒が多面的・多角的に見方を発展させている例

- ①ねらいとする道徳的価値の様々な面を考える。
- ②道徳的価値を支える様々な根拠を考える。
- ③様々な登場人物の立場で考える。
- ④焦点を絞って考えたり、視野を広げて考えたりする。
- ⑤時間の経過とともに変化する気持ちを考える。
- ⑥人間の強さや弱さ等を捉えて考える。

(6) 児童生徒が自分自身との関わりの中で深めている例

- ①教材の登場人物に自分を置き換えて考える。
- ②教材の問題点等を自分事として受け止めて考える。
- ③日常生活や学校生活を想起しながら考える。
- ④自分の生活を見つめ、振り返りながら考える。
- ⑤自分だったらどうするかなど考える。



【学習評価で大切にしたい流れ】

(7) 授業に対する教師の評価の観点【教師が自身の授業を見取る】

- ①道徳的価値を基に自己の生き方について考えを深められる構成だったか。
- ②多面的・多角的に考えることができたり、自分のこととして捉えたりできる問いだったか。
- ③発問に対する児童生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしたか。
- ④自分自身との関わりで、物事を多面的・多角的に考えさせる教材や教具の活用はできたか。
- ⑤指導方法は児童生徒の実態や発達段階にふさわしかったか。
- ⑥配慮を要する児童生徒への対応は適切だったか。